

平成 24 年度第 1 回こころに残る景観資源発掘プロジェクト
「こころに残る景観資源」指定物件（6 件、樹木）についての報告書

■こころに残る景観資源 マツ林（二ノ丸公園広場）



こころに残るエピソード

私が小さい頃、よく両親と散歩に訪れました。猿に飽きると、今度は木登りです。

この松の木だけが、少し曲がっていて、登り易くなっています。

小さい頃は、親父に、上げてもらいました。小学校も高学年になると自分で登りました。

自転車の練習もここでしました。こけても下が土なので安心です。

公園には売店もあり、この木の上で食べたものでした。

時間が進み、私が父親になり、子供が出来て、やはり、同じ事を、わが子にもするのですね。

ベビーカーを押しながら、猿さんと遊び、まだ小さい我子に木登りを強要する。

勿論、自転車の練習もこの場所で行いました。

二の丸広場の「松の木は」私たち家族を長年、見続けてくれています。

花が咲くわけでもなく、紅葉するわけでもない、松の木。世代が変わってもこの場所に有って欲しいですね。息子も25歳、次は孫を連れて、木登りですね。その日が来るまでお願いしますよ。

応募者：50歳／男性

所有者：岸和田市

講評：

岸和田城に隣接し、歴史的なまちなみと調和するマツ林である。周辺から自由に見ることができ、周辺の景観をリードしている。近年芝生化され、訪れる人の一層の憩いの場所となっている。エピソードにあるように、親から子へ思い出が語り継がれるマツ林である。

■ここに残る景観資源 エノキ（吉井町二丁目）



ここに残るエピソード

岸和田市の北端、忠岡町と隣り合う吉井町地区にある樹齢100年は超えると思われるエノキの大樹。夏は15メートル四方に鬱蒼とした葉を広げ、冬は一切の葉を落として天に向かって枝を広げている様は見る物を圧倒する。主幹の幹周りは約4メートル。根元の丑神白鶴大明神の石塚とともに、変遷激しい新興地区にあり、変わらぬ姿で吉井の人々の暮らしを見つめている。旧家加守田邸に隣接しているが、天の川の小さな橋を渡れば誰でも見ることができる。

応募者：65歳／男性

所有者：－

講評：

住宅街を一本中に入ると現れる巨大なエノキ。樹高は15メートル、幹回りは4メートル近くあり、応募者のエピソードにもあるように、見る者を圧倒するような迫力がある。やや奥まった場所にあるため、誰もが知っている樹木ではないが、非常に印象に残る。

根元にある石塚とそばを流れる天の川とともにこの地域のシンボルとしてこれからも大切にしていきたい樹木である。

■ここに残る景観資源 サクラ（塔原町）



ここに残るエピソード

塔原町の高台にある一本桜。村の共同墓地の傍らに佇み、人々の営みをひとり何年も見つめ続けている。標高が高いためか、ほかの岸和田の桜よりも1週間ほど遅咲きである。

応募者：49歳／男性

所有者：－

講評：

塔原町の高台に位置するサクラ。背景には和泉葛城山があり、山の景観と調和しつつもサクラが咲く季節には山の緑との素晴らしい対比を創り出している。周辺には電線などもなく、自然景観を阻害する要因も少ない。また、周辺には農の景観が広がっており、春だけではなく夏の葉桜、秋の紅葉など周囲の里山風景を美しく演出している樹木である。

■ここに残る景観資源 アメリカフウ（中央公園）



ここに残るエピソード

秋、中央公園もたくさんの樹木が色づき華やかに饗宴してくれます。アメリカフウの並木は、70メートルくらいかな。80メートルくらいかな。紅く色づいたとき、時計台をそっとのぞき見しながら歩くのは、ロマンチックです。ちょっと歩いてみませんか。うれしい数分です（新緑時もよし）。

応募者：76歳／男性

所有者：岸和田市

講評：

中央公園に生育するアメリカフウ並木である。応募写真は紅葉の時期のものだが、冬の葉のない姿も、新緑の季節も楽しむことができる。公園内の並木であり、地域のシンボルになるというものではないが、中央公園の一部として岸和田の景観を形作っている。中央公園にはほかにもたくさんの樹木の応募があり、また探してもらいたい。

■ここに残る景観資源 エノキ（中央小学校）



ここに残るエピソード

現在 93 歳の母の小学校時代に存在したようだが大きさは記憶にないようだ。知人の 93 歳の方は、その頃すでに大きなエノキだったと記憶していた。また、別の 65 歳の知人は、学校に行ったらエノキの前で、DDT を頭にふられたことがある。

という風にそれぞれ、エノキを覚えていて、その時の出来事を思い出している。おそらく、講堂が建てられた時に植えられたと考えられる。現在も建っている鉄筋の建物の前だ。

応募者：71 歳／男性

友達といっばい遊んだ後えのきの下のかげで休めるおすすめの木

応募者：10 歳／女性

所有者：岸和田市

講評：

中央小学校の校庭にあるエノキ。校庭に入ることはできないため、学校の外側から見てもらうことになる。背後にある歴史を感じさせる校舎とよく調和している。

エピソードにもあるように、学校のシンボルツリーとして多くの卒業生のここに残る樹木である。これからも在学生のシンボルとなってもらえるように、のびのびと繁ってもらいたい。

■ここに残る景観資源 メタセコイア（蜻蛉池公園）



ここに残るエピソード

「人は、木に寄り添うと心が安らぐ」と言われますが、木と、その木に寄り添っている人を眺めているだけでも、やはり安らぎを覚えるということを発見(?)させてくれた木です。高い位置からの眺め、しかも落葉の季節でないと実感することができませんが。

応募者：61歳／男性

所有者（管理者）：大阪府

講評：

蜻蛉池公園に生育するメタセコイア群。応募された写真は公園の高台から撮られたものだが、近くから見ても周辺の樹木とよく調和している。公園内の樹木で、地域のシンボルとなるものではないが、蜻蛉池公園の一部として岸和田の景観を形作っている。休日にはたくさんの人がこの公園を訪れて静かなひと時を楽しんでいる。